

今月の御教え

神へは何でも願え。神は頼まれるのが役である。

……「天地は語る」第三十八条……

## 解説

私達の信仰する天地金乃神様は「親神様」と申され、まさに我々人間の「親」そのものであります。親というものは、子が悩んだり苦しんだりしているとき「遠慮なく何でも話してくれ」と伝え、共に問題に立ち向かって行くものです。そして子は、自ずと、その恩返しに親孝行をするようになり、先々、親子が共に助かることになるのです。このことが「立教神伝」に述べられた「親にかかり子にかかり、あいよかけよで立ち行く」ということの意味であります。それゆえ、私達は真の親の如く手放して包み込んで下さる親神様に何でも御願いし、おかげを頂いたら、次に、金光様のお言葉である「お礼と喜びの生活を進め、神心になって人を助け導く」ことが、天地金乃神様、金光様への厚恩に報いることになるのであります。

共々に一層信心に励み、おかげを頂いていきましよう。